

卒業生からのメッセージ

編集委員会
Editorial Board

九州産業大学 情報科学会誌
Faculty of Information Science, Kyushu Sangyo University
editor@is.kyusan-u.ac.jp, <http://www.is.kyusan-u.ac.jp/>

1. はじめに

九州産業大学情報科学部は、平成14年4月の開設以来5年を経過し、平成19年3月に2期生が卒業していきました。別項で詳しい説明がありますが、就職率は100%を達成し、東証1部上場企業多数を含む企業に就職していきました。社会に進出している情報科学部卒業生の総数は、他大学・他学部と比較して圧倒的に少ないのは事実ですが、これから活躍してくれるものと期待しています。

今回は、卒業生のうち情報産業に勤務している2名に、在学生へのメッセージを書いて貰いました。学生時代にやっておいた方がよいことなどのアドバイスが書かれています。ぜひ一読して、在学生皆さんの今後の生活設計に役立ててください。

書いて戴いた皆さんは（順不同、敬称略）

- 永尾亜美
- 泉貴浩

の2名です。執筆者の皆さんありがとうございました。

2. 卒業生 A さん

世界が広がった、まさにこの言葉がピッタリだと、入社して4ヶ月経つ現在思います。

今まではずっと学生だったのだから当たり前なのかもしれないけれど、自分を取り巻く沢山のことが変わったように思います。変わっていないのは学生時代の友人とのつながりぐらいでしょうか。あとは自分自身の生活や環境はもちろん、心構えといったようなことなど、ほとんど変わりましたし、生まれてきたものもあります。

私の会社では、入社後に1ヶ月半導入教育というものと同期全員で受け、その後、各部署へ配属という流れでした。導入教育期間では、会社の組織に関することから学び、半導体物理やC言語でプログラムを作ってマイコンで動かす等の基本的な勉強、また、英会話の研修やプレゼンテーションの研修等、様々なことを学びました。大学の講義のようだった、と、今後入社を控えている不安いっぱいの後輩に言って少しは胸を撫で下ろしてもらいたいのはやまやまですが、残念ながら違いました。入社当日、もう入社式が始まる前からがらりと気持ちは変

わり、その後の教育を軽い気持ちで受けることは絶対ではありませんでした。最初は「学ばなきゃ」という気持ちだったのが徐々に「学びたい」という気持ちになりました。常に焦りと不安がありましたし、そこから生まれた気持ちだったと思います。今ももちろん焦りも不安も消えていません。「貪欲な姿勢で」というのは、こういうことを言うのかなと、最近思います。

仕事内容の話をしてみると、私の配属された部署では主にワンセグ関係の仕事をしています。特に、車載向けのワンセグ、つまり車のナビに組み込むワンセグ部分の仕事です。いつか自分の作ったワンセグ機器が世の中に出て沢山の人の使ってもらえたらいいなど、今まだ仕事らしい仕事をしているわけではありませんが、夢を持って仕事に取り組んでいます。

学校を卒業し、いざ社会人になってみると、学生時代よりも「勉強」が待っています。これはただ私に限ったことではありません。誰もがそうだと思います。でもだからと言って、今何もしなくても社会人になったら何とかなるんだ、という気持ちになるのは、まだ待ってください。今やっておくというのも一つの手です。もちろん、最初から自分の夢があって今大学で学んでいる分野の職業に就くんだ、という熱い気持ちを持った人たちも沢山いるでしょうし、そういう人たちは多分、趣味の一環として専門的な自分の好きな分野を学んでいるのだと思います。しかしそうではなく、とりあえず今大学で学んでいる分野の職業に就こうかな、わりと、いや、結構好きだし、という人も沢山のいると思います。そのような人たちに「今やっておく」ということはお勧めです。

情報科学部は、今はまだ「この学部結構なんでも教えてくれる」という気持ちの人は少ないと思いますが、社会人になってみると「なかなかいろんなことを教えてくれたのだな」と気付きます。もちろん全部が全部履修した講義の内容を覚えているかというところではありませんが、でも、その事実は大変心強いです。中身は分からなくても、言葉は聞いたことがある、この「初耳ではない」ということで心強く感じるのです。そして「これってなんのことだっけ？」という気持ちでまた一つ学べます。だから今、情報科学部で沢山のことを学んでください。

最後に、学ぶこともさることながら、遊びもしっかり

楽しんでください。社会人になったら遊べなくなる、ということはありません。遊べます。でも平日はやはり友達と話したりすることでさえあまりできなくなります。平日学校に来て友達と話したり一緒に勉強できるのは今しかありません。また、やるべきことをやる、という時間があるからこそ、自由に遊べる時間がより楽しく思えるのだと思います。社会人になってからはメリハリをつけて時間を有効活用することがとても大事になります。今からその準備をしておくこともいいかと思えます。思う存分今を楽しんでください。

3. 卒業生Bさん

早いもので、就職して1年と4ヶ月が経ちました。近況を報告したいと思います。私は現在、製造・販売をしている企業に就職し、商品の研究開発を行っています。勤務地は久留米で、一人暮らしです。大学時代から一人暮らしをしていたので、暮らし自体に大きな変化はなかったのですが、仕事と家事の両立には苦戦する日々を送っています。

さて、仕事はというと、2年目ということもあり自分が任されている仕事についてはある程度慣れてきたつもりです。しかし、同じグループの人数が少ないこともあり、自分には様々な仕事が回ってきます。1千枚程度のコピーをとったり、参加したことない会議に出席したりです。おそらく新人の社員というものは、このように多くの仕事（一般的には自分の仕事以外の雑務と呼ばれるもの）を経験しているものだと思います。

そのような経験の中で、私が一番経験になったことを紹介したいと思います。私の仕事は、商品の研究開発です。しかし、私が今作っているものは、商品の販促用のシステムです。このシステムをお客様に納品を行う場合、実際にシステムの開発に関わった人間が営業マンと一緒に説明を行います。

納品先のお客様というのは、パソコンを操作したことがあまりない人も多いです。そういった方々に、商品を理解していただくことは大変難しいことです。特に、私のような説明が下手な人間にとっては、入社して1年以上たつ今でも分かりやすく説明することが、重大な課題のひとつです。営業マンや先輩がサポートを行ってくれますが、私の自信なさげな説明でお客様がシステム、または自社に対して不信感を抱いていないかいつも心配しています。最近では、ある程度自信をもって説明できるようになってきたと思っていますが…。

このように、不特定多数の人や専門用語が通用しない人への説明は、自分自身が行った仕事を振り返り、自信をつけるうえで大変大きな役割をしていると思います。自らが作ったものをお客様が使って喜んでもらえることが、これほど自分の自信に繋がるとは思っていませんでした。1年前の私であれば、きっと相手のことをよ

く考えず、専門用語を羅列し、自分だけが満足する説明を行うことしか出来なかったと思います。今では、自身のコミュニケーション能力の低さを痛感し、説明には気を使うようにしています。

先日、情報科学部のオープンキャンパスを拝見させていただきました。どの研究室も大変素晴らしい研究を行っており、感銘を受けました。折角多くの人に研究を知っていただくチャンスですので、是非高校生がわかりやすく、また面白いと思える説明を心がけていただければと思います。そして、そのような経験が社会に出たときに生かせるように、積極的に参加していただきたいと思えます。

最後になりましたが、私も後輩の皆さんに負けぬように頑張りたいと思いますので、皆さんも研究で力をつけてください。そして、出来ればそれを相手に伝える力もつけていただければと思います。学生という限られた時間ではありますが、皆さんが社会にでて、即戦力となるように、応援しています。それでは、残された学生生活を楽しんでください。以上。